

第2回 市民館跡地利活用構想及び文化小ホール基本構想・基本計画に関する 有識者検討会議 会議録

日 時 令和6年5月20日（月）10時00分から11時50分
場 所 周南市役所 本庁舎4階 庁議室
出席者 ・委員10名
榑原 弘之、河野 拓也、竹下 徹、児玉 真、原田 宗隆、
西崎 博史、松本 久美子、桐生 智晃、室内 文彦、藤井 崇史
・事務局5名
企画部長 川口 洋司、企画部次長 行富 広康、
企画課市民館跡地利活用推進室
室長 中村 成孝、室長補佐 丁田 純、主査 近松 昌哉
・株式会社シアターワークショップ 代表取締役 伊東 正示、古川 茉弥
資 料 ・会議次第のとおり

会議録

1 開会

◇事務局 ただ今から、第2回市民館跡地利活用構想及び文化小ホール基本構想・基本計画に関する有識者検討会議を開催いたします。本日は、お忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます、周南市企画課の中村と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日の会議は、12名中、10名の委員の皆様にご出席いただいております。なお、周南公立大学の稲垣委員及び周南市母子保健推進協議会の岸委員が、本日ご欠席となっております。

議事に入る前に、3月25日に開催いたしました第1回有識者検討会議の内容で補足させさせていただきたい箇所がございますので、最初に事務局よりご説明させていただきます。

◇事務局 前回の会議におきまして、団体ヒアリングの速報として、客席数について、100席～300席が20%、300席～500席が55%、500席～1,000席が25%という結果であったとご報告させていただきました。後ほどの資料にも入っておりますが、「500席以下望む声が7割を占めている。」という表現が、「客席数を500席以下にするよう誘導している発言である。」という指摘を受けました。客席数は現時点では当然決まっておらず、誘導の意図はないことをご理解いただければと思います。以上でございます。

2 議事:(1)市民意見聴取の結果報告

◇事務局 それでは、これより議事に入ります。

本日は主に、市民館跡地利活用構想及び文化小ホール基本構想の素案の内容について、議論いただきたいと存じます。これ以降の進行につきましては、設置要綱第6条の規定により、会長が議長を務めることとなっておりますので、榊原会長、どうぞよろしくお願いいたします

◎会長 それでは始めさせていただきます。議事進行につきまして、委員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。議事に入る前にまず、この春の人事異動によって、周南市中学校文化連盟会長として新たに就任されました委員をお知らせいたします。ひとことよろしいでしょうか。

●委員 (委員 自己紹介)

◎会長 前回3月の会議では、これまでの経過や文化小ホールの考え方などについて議題としましたが、今回からいよいよ具体的な議論になります。委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思います。本日お2人ご欠席ですが、欠席委員からもあらかじめご意見を事務局が聞いているということで、その内容も資料としてお配りしております。

それでは議事に入ります。お手元の次第をご参照ください。議事(1) 市民意見聴取の結果報告につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

◇事務局 (資料に基づいて説明)

◎会長 ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明につきまして、ご質問等がございましたらお願いします。

団体ヒアリング参加団体と団体アンケートの回答団体は重複していますか。団体アンケートのほうが団体ヒアリング参加団体より多い認識で間違いないでしょうか。

◇事務局 同時開催しているため重複している団体もあります。

◎会長 前回の会議でも言及がありました団体ヒアリング及び団体アンケートの結果が、基本構想にも反映されていると思います。もし必要があればご質問いただければと思います。よろしいでしょうか。では議事(2)に移ります。

2 議事:(2)市民館跡地利活用構想の素案について

◎会長 議事(2) 市民館跡地利活用構想の素案について、まずは背景や前提条件の整理、ゾーニングイメージについて事務局から説明をお願いします。

◇事務局 (資料に基づいて説明)

◎会長 ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明につきましてご質問等がございましたらお願いします。本日欠席の委員から、跡地利活用構想の話について、「この施設を知らない市民も多いので、どのような使い方をすればよいか、わかりやすく示していかなければならないのではないか。あるいは市が考える文化の定義を明確にしたほうがよいのではないか。市民のご意見をしっかり受けるべき。」というご意見をいただいています。

また、別の欠席委員からは、「岐山通りの直進左折車線の渋滞を考慮した車の動線」と、交通に関するご意見をいただいております。この場にいらっしゃる委員からもご質問いただけると幸いです。

●委員

新聞に、ＪＲ徳山駅近くにコンベンションホールができ、市の要望で自由に使えるような多目的ホールができるという記事が出ていました。学校のイベント等で積極的に使えるということで、それがあれば、我々が第１回で検討した文化小ホールのような小さなスペースは市内に何個もいないのではないのでしょうか。そのような考え方が同時進行で市内にあるならば、我々にも共有いただきたいです。また、将来的に、周南公立大学が今の小中学校同様に学校開放をし、申請をすれば市民が使えるようになることはあるのでしょうか。夜間の空き教室を利用する、という考え方で、文化芸術活動の拠点としてある程度部屋を確保できるのであれば、この文化小ホールに求める部屋のあり方自体が変わるのではないのでしょうか。

◎会長

前半について、民間でもいろいろな動きがある中で、公として文化施設を作っていくことの考え方についてのご質問でした。後半は、周南公立大学の施設等を有効活用できる可能性も含めた検討が必要ではないか、というお話だと思います。そのあたりに関して市のお考えはいかがですか。

◇事務局

まず西京銀行がお作りになるコンベンションホールについて、市としてもコンベンション推進をまちづくりの一環として推進しています。商工会議所からもお声をいただいて実現に至っているものです。コンベンションホールであるため、音楽や演劇などを行うホールではなく、山口県総合庁舎にあるさくらホールが広がったイメージのものではないか、と考えております。市が今からやっていきたいこととしては、ホールという名前は確かに同じですが、施設機能としては異なっていると考えております。

また、学校施設の開放については、大学施設に市民の方が自由に入って使えるのか、使い勝手等、大学との重ね使いには難しいところもあります。また、立地が非常に重要であろうかと思えます。私どもとしましては、先ほど申し上げた通り、都心軸上に施設を集約して作っていくことによってまちの魅力向上や今後の人口減少社会における都市力を高めていく、という観点のもと、この市民館跡地に文化小ホールをつくり、子育て支援や健康づくりなど、今後さらに必要となってくるであろう機能とあわせて整備していきたいという思いがございます。

◎会長

民間施設あるいは大学の施設との役割分担の整理を示いただきました。今のようなお話でよろしいでしょうか。

●委員

はい。全体をより広く考えた方がいいのかなと思います。

◎会長

ありがとうございます。

●委員

コンベンションセンターに関して、長崎市が駅前にコンベンションセンターを建てました。そこには大きい部屋も小さい部屋もありますが、文化関係の市民が利用できる場所が増えたという感覚はほとんどありません。そういう意味では、コンベンションと文化小ホールが違うというのは、そのとおりだと経験的に思います。

また、どうしても中央集約型になってしまうことについてお話いたします。PTAや、市内で活動されている方は、身近なコミュニティが最適ではないか、という感覚のもと、学校という要望等が出てくるのだと思います。そういう意味では、市内中心部に集中させる方式がそれだけでいいのか、今後考えなければならぬと思います。地縁・血縁のコミュニティが機能しない状況の中で、どういう中小規模のコミュニティを作っていくか、ということが市には求められていると思います。この場でも、文化や芸術によってどのようにすれば小さいコミュニティを作っていけるのか、ということを考えるべきではないでしょうか。建物だけではなく、そこで何をやるのかという機能性のほうがホールに求められているとつくづく感じています。

◎会長

ありがとうございます。前半についてはコンベンション系施設と文化系施設は意味合いや役割が違うというところについてのご知見をいただいたと思います。後半については、どちらかというとホールに限らず文化活動をまちの中での活性化という点で考えると、ホールがまちの中心部にあるだけではなく、コミュニティレベルのところにも必要ではないかというお話かと思います。それはおっしゃるとおりだと思います。ソフト面で、周南市あるいは文化振興財団等も含めて、どう活かしていくか、というところに関係するのだと思います。その辺りもどこかのタイミングで議論できるとよいでしょう。ありがとうございました。その他何かご意見はありますか。

●委員

大きいホールとしては文化会館があり、山口県総合庁舎のさくらホールは400人規模、それを倍にしたものが西京銀行のコンベンションホール、ということで、私のイメージでは講演会やセミナー等、人が集まる空間を提供する場だと思います。その中で、文化小ホールはいかにあるべきか、という点に繋がっていくと思います。私ども文化協会加盟団体としては、やはり本格的な劇場機能を持ち、舞台・客席が快適な空間であると良いと考えます。また、コミュニティごとの公民館が市民センターとしてとても活発な活動を続けていますが、それはそれとして地域を基盤にした活動としてある一方で、文化小ホールの機能はそれらを集約させ時代に対応し、さらに言えば、時代を少しリードするような機能も足していくと、新しい運動や活動が起こりうるだろうと思います。そして、地域で文化活動をしている人たちにとっては、連携が取れる地盤がほしい団体も多いと思います。もちろん力がある団体は文化会館大ホールで発表を行います、そこを

使えない、自らの発表の場が持てない団体は、文化小ホールがあれば、発表を行えるし、それが次の新しい活動をやってみよう、という機運を高めていくことに繋がります。そういった機能をここで見出していくことができればよいと思います。全国的に自治体経営が大変な中こういうことを議論できることは幸せです。このまちではそのような場を産み出そうとしていることは素晴らしいと思います。それをよりよいものにすれば、市全体が光り輝き、新しい文化の時代をリードできるまちになっていくと期待しています。

また、敷地に隣接する山口銀行は、本計画に興味はないのでしょうか。聞いたところによると、最近の銀行は店舗を構える時代ではないということで、何か情報がありますか。

◇事務局 山口銀行について、今ここでお示しできるものは特にございません。山口銀行の建物も決して新しい建物ではないので、銀行は銀行の中で、今後店舗のあり方というのは考えていかれるとは思いますが。市民館跡地利活用という視点においては関わりがないことをご理解いただければと思います。

◎会長 ありがとうございます。文化小ホールの話に入りつつあるため、文化小ホールの議論に入ったほうがよいかもしれないのですが、ゾーニングについて確認させていただきたいです。駐車場について、国機関が併設しますが、併設される機関には税務署やハローワークといった、比較的市民の皆さんがお越しになる施設もあるかと思っています。保健センターも波はあると思いますが、時によっては結構人がいらっしやることもあると思います。そのなかで、やはり必要な駐車場台数の推計は、どこかで確認すべきだと思うのですが、方針はあるのでしょうか。

◇事務局 各施設において、駐車場のピーク時間やピーク時期があります。推計するにあたり、どの時期や時間帯をピークとして設定するか、非常に難しいところです。国機関におきましては、税務署そしてハローワークが最も来客が多い施設だと思っています。ピーク時期とピーク台数についての情報をいただくように働きかけているところです。保健センターは現状、どれだけの利用台数かはわかるものの、今後文化小ホールができた後、ピーク時や他施設とピークが重なる時期もあわせて、施設全体の中での台数はまさに算出している状況でございます。まとめましたら改めて委員の皆様にも考え方も含めてお示しをし、ご意見等をいただければと考えております。

◎会長 ありがとうございます。たくさんの方に来てもらいたいということが大前提にあるため、皆さんに来ていただけるのがよいと思う一方で、やはり交通について、仮に容量が足りないかもしれない、という状況になった場合、うまく需要をマネジメントするような方策も検討しなくてはならないでしょう。ただ、それが文化小ホール等の機能へ支障をきたしたり、制約になったりしてはいけないとも

思いますのでそのあたりについても考える必要があると感じました。それでは次どうぞ。

●委員

子育て支援の立場から発言させていただきます。基本理念という中にこどもまんなか社会実現に向けて、という観点があつたのはありがたいです。また、市民アンケート、団体ヒアリング、ワークショップ等で非常に素晴らしいご意見が出ているのでぜひそれを参考にさせていただきながら進めていただきたいと思います。また、防災機能の充実について、保健センター機能の拡充、子育て支援機能の拡充とも繋がってくるのですが、こういう機能は災害時にも機能するチーム、ネットワークとしての活動を進めている中で、どうしても調理スペースや火が使える場所、水の確保ができる場所を求めています。また、自衛隊事務所が入ってくるということもございますので、平常時、非常時においても有効な施設である必要があります。ゾーニングイメージについて、児玉公園との連携への配慮という文言がございます。こういった仕事をしている関係でいろいろ意見をいただく中で、児玉公園と市民館跡地側のある建物を一体化するためにその一部を繋いでみてはどうでしょうか、という意見をいただいたことをこの場でご報告をさせていただきます。そこを繋ぐことによって、緑の児玉公園という一つの大きな公園の中で、ホールが出来る形となり、徳山小学校や市役所、その先の緑と文化のプロムナードという場所を含めて大きく言えば、文化を繋ぐエリアができるのではないのでしょうか。

◎会長

ありがとうございます。エリア的な部分も含めたご意見をいただきました。前段の防災の件については、今度できる施設は、いわゆる要配慮者利用施設になるため、緊急時対応等はある程度事前の検討が求められることは当然あるでしょう。文化小ホール基本構想でも防災面のことについて言及されると思います。火災対応も含めて検討をよろしくお願いいたします。後段の児玉公園との一体化についていかがですか。

◇事務局

とても素晴らしいアイデアだと思います。先ほど私どもから申し上げましたように、児玉公園と分断をしない、という表現をさせていただいたところでございます。そうした視点からも、現在道で分断されているところを繋ぐというのは素晴らしいアイデアだと感じます。委員の方から頂戴いたしましたご意見を含めながら、今後のあり方をしっかりと考えさせていただきたいと思います。

○副会長

2点お聞きしたいです。

まず敷地に新たに国庁舎が入ってくことで、敷地の規模は厳しいという認識なのか知りたいです。

もう一つは、今回、国庁舎と市の施設が連立する形になりますが、設計者については、国は国、市は市という形で考えているのかを確認したいです。

◇事務局

まず敷地の中に大きく3つの施設が入るところでの敷地の使い方、規模感としましては、やはり余裕があるとは言い難い状況です。とはいえ、全く無理なもの押し込むというつもりはございません。必要なものは必要なものとしてしっかりと考えつつ、あまり窮屈にならないような建物の設計を今後考えていかなければいけないと思っております。

また、設計者について、なかなか国庁舎と市の施設における設計者を合わせる、というところまではまだ国との調整ができていません。現段階では必要な機能そして面積、駐車場の規模等の協議段階であるため、設計については今後の協議内容だと考えております。

○副会長

今の話を受けて、私からの意見としては、まず敷地周辺の環境、交通については駐車場という形になろうかと思いますが、立体駐車場など景観を崩すようなものが入ってくる可能性については配慮していただきたいと思います。

もう一つ、先ほどの児玉公園との関連性については賛成です。ワークショップの中でも、市民の方から、せっかくある児玉公園を何とか活用できないのか、というご意見がありました。また、国庁舎と文化小ホールそれぞれが別の設計者による設計の可能性もあるようですが、それは市民の方にとっては関係のない話です。施設完成後、施設が一体的に利用されている必要があるのではないのでしょうか。例えば、国庁舎と文化小ホールの間に共有スペースといった、市民の方が混ざり合うスペースがあるとよいのではないのでしょうか。

国庁舎といえば、ご存じのとおり確定申告等の利用が想定されますが、ここに集う人の属性の違いも含めた交流を考えると、敷地が厳しいことは承知ですが、それらが混ざり合うような広場などがあればよいと思います。その空間で、国庁舎と文化小ホールが混ざり合い、また新たなものが生まれるような外部空間を作ってほしいと思います。

あわせて、市民の方がこの施設を通じて児玉公園を積極的に利用できるような動線について、設計者が変わると一体的な敷地の利用がなかなか難しくなるのですが、そういったところも含めてこの施設の3つの要素が一体になるような計画を望みたいです。

◎会長

まず前段について、国のエリアとそれから市のエリアの一体的な設計というのは、おっしゃるとおりだと思います。ハードルがあることは承知していますが、一体感のある空間作りのために、こういった方法が制度的に可能かご検討いただきたいと思います。先ほどの委員のご意見の中で、児玉公園との一体化の話がございました。これについて私からも一つ申し上げたいことがございます。道づくりについて、現在ウォークアブル化を他自治体でも推進しているところです。交通安全の面でも、昔は歩車分離でしたが、歩車共存型の道づくり等もいろいろあります。そういったものもうまく使えるとよいと思う一方で、駐車場の出入口をど

ここに設定すべきか、というところが制約条件になると思います。車動線との兼ね合いがあるとは思いますが、アイデアとして非常に良いご意見と申しましたので、ぜひ取り込んでいただければなと思いました。

ゾーニング含めたエリア全体の話で他にご意見はありますか。

●委員

この後の議論がおそらく文化小ホールの機能やそのあり方についての議論に向かうため、その視点に繋がる意見ということで一点申し上げます。

先ほど周南公立大学の話も出ましたが、本学は現段階でも地域貢献型大学というところを掲げております。現状も施設開放や大学のリソース、あるいは市民の方たちが講師になって市民公開講座行う等の活動をすでに行っているところです。先ほどの西京銀行のコンベンションホールや大学等も含めて、文化小ホールのあり方をここだけに限定して議論されるのではなく、まちの資源がどういう機能を持っているのか、確認しながらホールのあり方を考えなければならぬと思います。例えば、大学では、教育活動目的とした施設設計になっているため、やはりそこには何か活動を行うときに限界があるところもあります。そういった周辺の社会資源にはないようなところをこのホールの機能として伸ばす、という視点は大事だと改めて感じた次第です。

◎会長

ありがとうございます。西京銀行が予定されている施設との関係、あるいは周南公立大学の機能との関係を整理するようなご意見だと思います。他の施設がありながらも、ここで施設を作っていく際にどのような機能を持せていくべきか、というところについて、おそらく委員の皆さま自身の認識をこの場で整理できたのかな、と感じております。ありがとうございました。

2 議事:(3)文化小ホール基本構想の素案について

◎会長

続きまして議事（3）文化小ホール基本構想の素案について、まずは背景や前提条件の整理について事務局から説明をお願いします。

◇事務局

（資料を基に説明）

◎会長

ありがとうございました。市の考える現時点の具体的な施設機能について説明がありました。ただいまの事務局からの説明につきまして、ご質問等がございましたらお願いします。

●委員

施設の具体的な話ですが、ホールは下階に考えているのですか、上階に考えているのでしょうか。その点が気になりました。

◇事務局

このあたりについては、現地点では上下どちら、ということは決めきっておりません。基本計画といった次の段階において案としてお示しをし、まとめていきたいと考えております。

●委員

理念について、施設機能の考え方ということで、芸術文化という市民の方々の活動拠点のようなイメージで捉えていました。機能という言葉の問題なのか、または創造拠点という部分に含まれているのかも知れませんが、機能のところに芸

術文化や創造拠点などという文言を入れたほうが分かりやすいと思いました。今の形では、人が集まる場所、にぎわい創出というようなイメージが強すぎる印象を受けました。にぎわい交流、にぎわい創出と言うと、私の中では駅前図書館がそういう機能を持つイメージです。駅前図書館との役割分担はどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

もう一つ、健康増進機能について、文化会館の方では現在、企業の健診に使われていることがあります。これは本来、保健センターで行われるものだと思います。駐車場に健診車が停められるスペースがないため、文化会館に健診車が何台も止められているとのこと。健康増進機能を導入するのであれば、健診車が停められるスペースの確保が必要だと思います。

また、先ほどから駐車場は、ゾーニングの問題で話題に出っていますが、人が集まるという点は、文化会館も美術博物館も同じですが、動物園、文化会館、美術博物館の行事が重なるときに駐車場が足りないという状況があります。これは頻繁に起きており、イベントをするうえでとても大変です。駐車場があつてこそ人が集まっていただけと思うので、駐車場についてはきちんと考えていただきたいです。図書館にも立体駐車場がありますが、土日は満車になってしまい、市役所駐車場に停めて歩いて行く方もいらっしゃるため、駐車場は大事なことから思います。

◎会長

ありがとうございます。

1つ目は創造拠点機能のところについて、文化芸術という部分が少し見えにくいのではないかというご意見でした。ただ、文化芸術というのは、例えばその後の子ども居場所機能のところにも入ってくるためこのような書き方をされていると推測しました。

2つ目は、保健センターについて、健診は公的に行われているのと、企業として実施しているものがあり、役割分担について現時点で事務局として把握しているかというところと、交通についてのご意見でした。交通は先ほども議論があったため、特に前の2点いかがですか。

◇事務局

文化芸術の表現については考えさせていただきます。健康診断について、企業の行う健康診断について私どもは把握しておりませんが、市が行う健診では、健診車が保健センター前に入っている状況です。健診車がないと健康診断はできないため、これから施設配置を考えるうえで重要なポイントだと思います。

また、駅前施設との役割分担についてのお話がありましたが、そもそもの建物の目的がそれぞれある中で、にぎわいの創出という大きな目的は同じだと思っております。駅前という立地、図書館という非常に身近な公共施設であること、飲食施設も非常に人気な施設がございますので、にぎわいが生まれているという状

況です。そうしたにぎわいの生まれる施設を、こちらでは文化という視点において創出したいと考えております。

この2つのにぎわいが、先ほどのまちづくりの話にもあったような視点を絡めながら交流するイメージで施設整備、道づくりをし、その際に必要な仕掛けをしっかりと考えたいと思っております。

そして最後に、駐車場が文化会館ではイベント時に非常に不足しているという状況、駅前の賑わい交流施設もピーク時には足りないという状況があります。文化小ホールにおいてもピーク時にはもしかしたら足りず、庁舎前の駐車場にも停められないという状況が想定されます。それについては色々な考え方があって思っています。分散型で駐車場を整備する、あるいはまちのほうへ人の流れを生むために何か工夫をする、等色々なアイデアを駆使しながら快適に利用していただけるように考えていきたいと思っております。

◎会長

ありがとうございます。文化芸術のところを改めて見まして、例えば人材育成機能は、事務局としては当然文化芸術が大前提として、施設機能を整理した結果、文化芸術が表に出てこなくなっている状況かと考えました。そのあたりは市民へ伝わりやすい表現をご検討いただければと思いました。健診の件は、おそらく市の保健部局との関係が大きいと思います。この施設が担うべき役割はどこなのかという点を関連部局と整理いただく必要があると思いました。また、私は駐車場について、交通専門のため情報として申し上げます。例えば山口市でも同じような議論はありますが、山口市は先ほどのウォークブルという視点のもと、ある程度拠点となる駐車場をいくつか市街地の中に集約整備し、そこから目的の場までむしろ歩いてほしいという整理のしかたをしていました。ある程度市民が歩くことで、回遊やにぎわいが生まれるという整理です。もちろん駐車場がいらない、ということはないですが、まちづくりの考えの中で駐車場について整理されるということだと思います。その他意見はありますか。

●委員

いわきアリオスでは、当初アートセンターとしてパフォーミングアーツをしている人だけのものではないかと思われる危険がありました。しかし、みずからを「生活支援型パフォーミングアーツセンター」と規定したことで、事業もサービスも100%市民のための言う考え方になってきています。しかし芸術に力がないと市民のためにはなりません。芸術の力をどんどん落としてしまうと、市民のために何かやろうとしても全然効果が出ないため、芸術の力は維持しなくてはなりません。

ただ、考え方として、アートをやること自体が大事というより、アートによって市民が幸せになることが大事です。そのための仕掛けを作るのがホールの役割だという考えです。そのあたりのことをうまく使えば、市民のなかの芸術を扱って人たちに、芸術をないがしろにしている、と思われることを回避できるので

はないでしょうか。こどもまんなか社会について、こどものための制度を作ろう、という方向に行きがちです。こどもを真ん中に、いろんな人が周りに集まっているいろいろ考えていろいろやっとう、ということが本来のこどもまんなか社会の考え方だと思います。誰かに任せればこどものためにお金を使ってくれたり制度を作ってくれたり、といった発想ではないことは伝えていくべきだと思います。

基本理念について、この理念を本当に実現しようとする専門家が必要です。例えば私は音楽専門ですが、音楽の専門家がほしいのではなく、音楽を知っていて、音楽を市民に、こどものために活用できる専門家が必要です。しかしこれがなかなかおらず、全国的に人材不足となってます。専門家を登用することももちろん大切ですが、ただ登用すれば、と簡単にはいかないと思います。育てる、という視点を本気で考えていかなければいけないと思いました。

◎会長

重要な点をご指摘いただいたと思います。前段についてはお話を伺っていると思ったのは、どうしても複合施設であるために、総合的な場所になりやすいところがあるのだと思いました。いろんな機能が入っているものの、何でもある、というより、ある程度性格を明確に打ち出していく、かつあまり敷居が高くないように、ということが欠席委員からのご意見でもありました通り、まだ詰め切れていない部分ですが重要だなと感じました。

文化小ホール関係の運営体制やソフト面についてはどちらかと言うとこれからの検討事項でしょうか。

◇事務局

おっしゃる通りです。施設で何をやるか、誰が運営するのか、という点は基本計画の策定に向けて検討していく事項です。またたたき台を作って、委員の皆様方の方にご意見を賜ればと思っております。

今のご指摘もあったように、やはり運営体制は大事だと思います。同時に、使い勝手の良さといった部分も大事だと思います。実際に活動されているお立場からのご参加もあり、どこかのタイミングで議論できそうということなので、委員の皆様、よろしくお願いいたします。

●委員

理念の部分について、令和7年度に学校部活動の完全地域移行化を市が進めているところですが、スポーツ活動については若干指導者も手を挙げていただけたところが出てきたと聞いていますが、文化芸術活動は自然と消滅していくのではないかと、思っています。小学校、幼稚園保育園時代からやったことが中学校で途切れてしまい活動の場がなくなっていくということは、文化小ホールにおいても、子どもに文化芸術に対する興味・関心を持ってもらう施設に持っていくのはかなり難しい局面を迎えるのではないかと、思います。文化芸術活動については、地域の伝統を繋ぐという点においては、学校の中においても部活動とまでは

いかないまでも残していったほしいと思います。ウェルビーイングに繋がり、一つでも幸せだと子どもが感じてくれるような建物にしてほしいです。

◎会長 ありがとうございました。学校や子どもの文化活動の支援体制という話について事務局からのお話もあるかと思いますが、そのあたりに近いお立場からいかがですか。

●委員 今年こちらに来たため、周南市の部活動の地域移行がどのような動きになっているか詳細はつかんでいません。ただ、他市町の様子を見ると、指導者不足がかなり大きな問題となっています。ホールをどう使っていくかという問題と、文化部の地域移行をどうやっていくか、これは両方鑑みながら取り組まないと、建物は作ったけれども指導者はいない、となってしまいます。

 そのあたりは部活動推進協議会の流れを見ながら考えるべきだと思います。

◎会長 そのあたりについて事務局の現時点の意見はありますか。

◇事務局 ご指摘いただいた内容は重要です。これから周南市は部活動の地域移行を推進しているなかで、そことの連携を図りながら、部活動の地域移行という視点においての施設のあり方をご意見賜りながらまとめていかなければならないと思っています。指導者不足というお話もあるなかで、人材育成の視点が必要等それぞれのお立場においてご意見賜りたく存じます

◎会長 基本計画ではソフト面についても検討するそうです。この施設にどのような人材を置くか、という点にも関係するでしょう。そこでの議論となればよいと思います。

●委員 子ども居場所機能や子育て支援機能に繋がる意見です。

 すでに周南市では子育て支援に力を入れている中で、さらに強化するという観点で、保護者や子どもの居場所というキーワードが出ていますが、そこからさらに発展し、保護者や子どもが学べる、そして成長するという仕掛けがこういったホールを通じてどう実現できるか、という視点が大事になっていくと思います。

 そう考えたとき、ハード面からいくと、例えば子どもの発達や成長に直接関わる部分として、キッズルームやプレイルームの有り様というのはかなり大事になってくると思います。例えば、児玉公園が屋外活動というところで子どもの育ちに関わっていきます。子ども・子育て支援に関するニーズ調査が同時並行で動いていると思いますが、市内の保護者から、雨天時どう子どもたちを遊ばせたいか、といったご意見が非常に多いと認識しております。室内のキッズルームやプレイルームに集い、雨天時ならではのイベントを行う、ということも大事になってくると思います。また、保護者が学べる場という部分では、具体的にどこまで実現するかについては別の議論になると思いますが、研修室やプレイルームで子どもの遊びを俯瞰的に親も見ながら、専門家を入れて子どもを理解し、質の

高い子育てに繋げていく、というところもあると思います。こういったハード・ソフト両面を議論しながら進めることが重要でしょう。

◎会長

おもに子育て支援機能についてご意見いただきました。

文化芸術のソフト面についても意見をいただきましたが、子育て支援のソフト・ハードについての議論も必要でしょう。本日ハードの部分については、我々としても理解は深まった部分があると思います。ハード・ソフトをいかに活かして有効に機能させていくか、という議論に移行してきていますが、それはおそらく次回以降の議論となるでしょう。そういった部分も本日いろいろご意見いただき、市の中で保健部局や教育部局等との調整が必要だと思いますが、そういった部分含め、次回どこまで進むのかわかりませんが、非常に重要なご意見を多数頂戴しているので、本日の意見を含め検討いただけると幸いです。

○副会長

周南市文化小ホール基本構想という名前だと、文化小ホールについての構想という印象を受けます。複合施設である、ということが伝わらないです。複合施設として文化・子ども・未来等機能がどう混ざるかが重要です。市民がわかりやすいタイトルに変更すべきでないでしょうか。

また、市民ワークショップに学生が4名参加していますが、若い世代・子ども・未来、という言葉が市民ワークショップで頻出します。この4名の若い学生たちが言うことをみんなが応援するような形になっていて、高齢者の方が諦めるような発言をよくされます。私たちはもういないから、若い未来の子たちのために、という言い方をされますが、このワークショップを見ているとそうは感じません。文化小ホールを子どものための施設、と推し出すと、それ以外の中堅や高齢者世代の居場所はどうなんだ、という話になると思うのですが、ワークショップの様子を見ていて確信したのは、年をとられた方たちが子どもの気持ちになってお話されているということです。子どものために作るということは、得てして高齢者の皆さんが自分自身のために作られているものなのではないか、と思います。作るものとしては同じですが、表現の仕方、市民への伝え方について、子どもと文化のためのものを作る、ではなく、みんなが子どもの気持ちになれるようなホールという形の中で、ネーミングが重要になるのではないかと思います。

◎会長

市としての元々の着想として、やはり文化小ホールを作っていきたいというお考えがあると思っています。ただ同時に、保健、教育面の機能、あるいは子育て支援機能等も一緒に考えていきたいという中で現在のコンセプトになっているでしょう。機能面のご意見をどう取りまとめて一つのコンセプトにしていくか、現在は少しコンセプトが広がっているという印象があります。先ほどから出ているご意見の中にも出ているように、複合施設の宿命かもしれないですが、本日の議論等も踏まえてコンセプトについては、市でも改めてご議論いただけるとよいと思っております。

3 その他

◎会長 以上で全ての議事が終了となりますが、最後に、「その他」として、事務局から連絡事項等をお願いいたします。

◇事務局 皆様、お疲れ様でした。

 本日の会議の内容につきましては、第1回目と同様に議事録を作成し、皆様にご確認いただいた上で、市のホームページに掲載させていただきます。次回第3回会議の開催は、7月22日(月)午後2時から、市役所シビック交流センター2階の交流室1で行います。テーマは、事業方針、施設の機能や規模、施設配置について、本日ご議論いただいた内容からさらに踏み込んだ内容を予定しています。

 なお、今後の会議についてですが、第4回、第5回の会議をそれぞれ8月と9月に開催したいと考えておりますが、スケジュールが変更となる可能性もあります。委員の皆様におかれましてはお忙しいところ誠に恐れ入りますが、なにとぞご理解ご協力のほどお願い申し上げます。日程調整につきましても改めてお知らせさせていただきたいと存じますので、後日ご案内いたします。事務局からは、以上です。

◎会長 以上で次第に基づく全ての議事を終了いたしました。本日は非常に重要なお意見を多数いただいたと思います。長時間にわたり、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しいたします。

4 閉会

◇事務局 本日はありがとうございました。

 以上をもちまして、第2回市民館跡地利活用構想及び文化小ホール基本構想・基本計画に関する有識者検討会議を終了いたします。皆さま、お疲れ様でした。